

- 問1 北海道にある札幌、室蘭、知床などの都市名や地形名の多くに共通する歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|---|--|--|
| 1. 先住民族であるアイヌ民族の言葉に、後から漢字を当てはめたものである。 | 2. 明治時代の開拓使が、欧米の植民地を参考にして英語風の響きを漢字にしたものである。 | 3. 縄文時代から続く日本の古語が、気候の影響で変化せずに残ったものである。 | 4. 江戸時代に本州から渡った商人たちが、故郷の地名をそのまま付けたものである。 |
|---------------------------------------|---|--|--|
- 問2 北海道の産業構造の特徴について、市町村別の就業者割合をまとめた資料によると、道東や道南の広い範囲を含め、多くの地域で共通して高い水準にある産業分類があります。商業や観光業、医療・福祉といったサービス業を含むこの産業分類として、正しい名称を選びなさい。 (2026年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------|------------------------|-------------------------|-----------------------|
| 1. 農林水産業を主体とする第一次産業 | 2. 商業やサービス業を主体とする第三次産業 | 3. 先端技術や情報通信を主体とする第四次産業 | 4. 製造業や建設業を主体とする第二次産業 |
|---------------------|------------------------|-------------------------|-----------------------|
- 問3 知床で行われている、自然環境の保全と観光利用の両立を目指す「エコツーリズム」の考え方に基づいた具体的な取り組みとして、不適切なものはどれですか。 (2022年 栃木県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 希少な植物を踏みつけないよう、散策路を限定したり木道を整備したりする。 | 2. 地域の自然に詳しいガイドが同行し、ルールを守りながら自然を深く理解してもらうツアーを実施する。 | 3. 自動車による排気ガスや騒音、渋滞を抑えるために、一部区間で車両の乗り入れを規制する。 | 4. 自然環境を保護しつつ、さらに多くの観光客を誘致するために、山頂まで通じる新しい高速道路を建設する。 |
|--|--|---|--|
- 問4 北海道北部の利尻島・礼文島において、地域の産業を持続させるために行われている取り組みの背景と内容として、最も適切な説明はどれですか。 (2019年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 観光客の減少を食い止めるため、閉山した金山の坑道を再活用したテーマパークの建設が進んでいる。 | 2. 土壌の性質を改善することで、生産額が減少したサトウキビに代わる新たな特産品の開発が進んでいる。 | 3. 昆布の需要減少に対応するため、漁場をすべてレタスなどの大規模な野菜工場に転換する計画が進んでいる。 | 4. 高齢化による労働力不足を補うため、昆布養殖や漁業の技術を伝える後継者の育成・支援が行われている。 |
|---|--|--|---|
- 問5 北海道の東部に位置する太平洋沿岸の地域では、夏に「濃霧（海霧）」が発生し、日照不足などの影響を与ることがあります。この現象が発生するメカニズムの説明として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 北西からの乾燥した季節風が、暖流である黒潮（日本海流）の上を通る際に温められるため。 | 2. 南東からの湿った季節風が、暖流である対馬海流の上を通る際に温められるため。 | 3. 南東からの湿った季節風が、寒流である親潮（千島海流）の上を通る際に冷やされるため。 | 4. 北西からの湿った季節風が、寒流であるリマン海流の上を通る際に冷やされるため。 |
|---|--|--|---|
- 問6 日本国内で最大の小麦収穫量を誇る北海道において、生産効率を高めるために展開されている農業経営の特色として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 山間部の傾斜地に作られた階段状の畑を利用し、手作業を中心とした緻密な農業が行われている | 2. 温暖な気候を利用して、同一の耕地で年に2回異なる作物を栽培する二毛作が行われている | 3. 1戸あたりの耕地面積が広く、大型機械を活用した大規模な土地利用型農業が行われている | 4. 大消費地に近い立地を活かし、限られた土地で付加価値の高い野菜を作る集約的な農業が行われている |
|--|--|--|---|
- 問7 2018年における日本の都道府県別小麦収穫量において、過半数を超える61.6パーセントを占め、全国1位となっている都道府県はどこですか。 (2020年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 新潟県 | 2. 佐賀県 | 3. 北海道 | 4. 福岡県 |
|--------|--------|--------|--------|
- 問8 北海道の工業において、食料品工業が製造品出荷額の約3割を占める最大の製造業部門となっている背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2018年 三重県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 広大な土地や豊かな海から得られる農水産資源が豊富であり、原材料の調達が容易であるため | 2. 電力供給が安定しており、大規模な電力を必要とする金属の精錬や基礎化学品の製造に向いているため | 3. 原材料を海外から輸入し、消費地である関東地方に近い港湾部で加工・輸送するのに適しているため | 4. 高度な技術力を持つ労働力が集中しており、自動車や精密機械などの組み立て工場が密集しているため |
|---|---|--|---|
- 問9 日本の地方別統計において、北海道地方は耕地面積が極めて広い一方で、農家数は他地方と比較してそれほど多くありません。この「農家数に対する耕地面積の割合が非常に高い」という状況が、北海道の農業経営にどのような影響を与えているか、正しく説明しているものはどれですか。 (2019年 高知県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 土地の生産性が低いため、農業を営む世帯が減少し、耕作放棄地が最も多くなっている | 2. 農家一戸あたりの土地が狭すぎるため、複数の農家が共同で土地を管理している | 3. 一戸あたりの作業範囲が広いいため、生産効率を高める機械化が不可欠となっている | 4. 労働力が余っているため、機械を使わずに手作業による丁寧な栽培が行われている |
|--|---|---|--|
- 問10 冬に降水量（降雪量）が多くなる北海道の日本海側の気候の特徴と、その発生理由について説明した文として最も適切なものはどれですか。 (2026年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 冬に北西からの季節風が南西からの暖流の上を通る際に水蒸気を含み、山脈にぶつかるため | 2. 夏に南東からの季節風が南西からの寒流の上を通る際に冷却され、上昇気流が生じるため | 3. 夏に北西からの季節風が北東からの暖流の上を通る際に冷却され、上昇気流が生じるため | 4. 冬に南東からの季節風が北東からの寒流の上を通る際に水蒸気を含み、山脈にぶつかるため |
|--|---|---|--|
- 問11 北海道の気候的特色を活かした産業と、それに伴う人口の動きについて述べた文として、正しいものを選んでください。 (2024年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 年間を通して温暖で湿潤な気候であるため、特定の時期に労働者が増減することなく、外国人人口は常に一定である。 | 2. 冬の降雪と夏の涼しい気候が観光資源となり、季節によって外国人人口の割合が大きく変動する要因となっている。 | 3. 梅雨の影響を強く受ける夏の気候を利用した稲作が盛んであり、その収穫期である秋にのみ外国人人口が急増する。 | 4. 冬の降雪が少ないため、一年中安定して工場を稼働させることができ、工業に従事する外国人人口が年間を通して安定している。 |
|--|---|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 先住民族であるアイヌ民族の言葉に、後から漢字を当てはめたものである。	北海道の地名の約8割がアイヌ語に由来するとされています。先住民であるアイヌ民族は、文字を持たない代わりに地形や資源の特徴を詳細な言葉で呼び合っていました。明治時代以降の開拓の過程で、それらの呼び名に日本語の漢字が当てはめられたため、独特の読み方を持つ地名が各地に定着することとなりました。
問2	答え 2 商業やサービス業を主体とする第三次産業	北海道は大規模な農業が盛んなイメージがありますが、実際の就業者数の構成比を見ると、他の都府県と同様に商業や観光業、サービス業などの第三次産業に従事する人の割合が最も高くなっています。特に道東や道南などの地域においても、豊かな自然資源を活かした観光業や、地域住民の生活を支えるサービス業が産業の主体的存在となっているため、広い範囲でこの割合が高くなっています。
問3	答え 4 自然環境を保護しつつ、さらに多くの観光客を誘致するために、山頂まで通じる新しい高速道路を建設する。	エコツーリズムとは、地域の自然や文化の価値を伝え、その保全に責任を持ちながら観光を行う仕組みです。知床では、過去に道路の開通が自然環境への負荷を増大させた経緯があるため、新たな大規模な道路建設などの開発は、環境保全と観光の両立という方針に反します。
問4	答え 4 高齢化による労働力不足を補うため、昆布養殖や漁業の技術を伝える後継者の育成・支援が行われている。	利尻・礼文の両島では、高品質な昆布養殖や漁業が主要な産業ですが、全国の離島と同様に人口減少と高齢化が深刻な課題となっています。そのため、地域の伝統的な生業と「利尻昆布」のブランドを守ることを目的として、移住者の受け入れや若手漁業者の技術習得をサポートする後継者育成支援に力が入れています。地理的条件や自然環境を活かした産業構造を維持するための重要な施策です。
問5	答え 3 南東からの湿った季節風が、寒流である親潮（千島海流）の上を通る際に冷やされるため。	日本の夏は、小笠原気団から湿った南東の季節風が吹き込みます。この風が、北海道の東の海域を流れる寒流（冷たい海流）である親潮（千島海流）の上を通る際、海面に冷やされて空気中の水蒸気が水滴に変わることで濃霧が発生します。この霧は日照時間を減少させ、気温の上昇を妨げる要因となります。
問6	答え 3 1戸あたりの耕地面積が広く、大型機械を活用した大規模な土地利用型農業が行われている	北海道の農業は、他都府県と比較して農家1戸あたりの経営面積が非常に大きいことが最大の特徴です。特に小麦や大豆、てんさいなどの畑作においては、トラクターなどの大型農業機械を導入した「土地利用型農業」を行うことで、少ない労働力で広大な面積を管理し、高い生産性を実現しています。これにより、国内の小麦需要を支える重要な供給源となっています。
問7	答え 3 北海道	日本の小麦生産は、広大な土地を活かした大規模な農業が行われている地域に集中しています。統計上、全国の収穫量の6割以上を占める北海道が圧倒的な1位であり、それに次いで九州地方の福岡県や佐賀県が上位に位置しています。主食である米と比較して、小麦はより広大な面積を必要とする土地利用型農業としての側面が強いいため、北海道が主要な産地となっています。
問8	答え 1 広大な土地や豊かな海から得られる農水産資源が豊富であり、原材料の調達が容易であるため	工業の立地はその地域の資源と深く関わっています。北海道はジャガイモやテンサイ、乳製品などの農産物、および沿岸・沖合で獲れる水産物が豊富です。これらを腐敗させずに効率よく加工するために、産地に近い場所で食料品工業が発達しました。その結果、全国平均と比較しても食料品工業への依存度が非常に高い産業構造となっています。
問9	答え 3 一戸あたりの作業範囲が広いため、生産効率を高める機械化が不可欠となっている	農家数に対して耕地面積が広大であるということは、農家一戸が管理しなければならない面積が非常に大きいことを意味します。人の手による作業だけではこの広大な土地をカバーできないため、大型機械を活用した大規模経営を行うことで、一戸あたりの生産性を高める工夫がなされています。これが、北海道が日本最大の食料供給基地と呼ばれる理由の一つです。
問10	答え 1 冬に北西からの季節風が南西からの暖流の上を通る際に水蒸気を含み、山脈にぶつかるため	北海道の日本海側では、冬になるとユーラシア大陸から吹く冷たい季節風が、南西から流れる暖流の上を通ることで大量の水蒸気を補給します。この湿った空気が山脈にぶつかって上昇することで、日本海側に多くの雪をもたらします。
問11	答え 2 冬の降雪と夏の涼しい気候が観光資源となり、季節によって外国人人口の割合が大きく変動する要因となっている。	北海道は梅雨の影響をほとんど受けず、夏は涼しく冬は雪が多いという気候の特色があります。この特色を活かした観光業や農業が発展しており、特に占冠村や二セコ町のような国際的なリゾート地では、冬のスキーシーズンや夏の避暑シーズンに外国人労働者が増加します。このように、その土地の自然環境や気候が、産業構造や地域住民の構成に大きな影響を与えています。